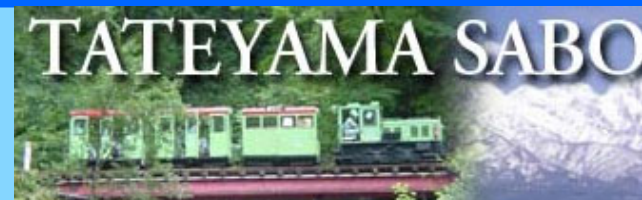


『世界遺産×観光フィールドスタディ』を開催！



「世界遺産×観光フィールドスタディ」は、令和8年度に立山砂防が国直轄100年・県120年の節目を迎えるにあたり、世界遺産登録を目指す立山砂防の現地視察や講座を通して、未来を担う若者が主体となって地域の将来像を考え、世界遺産登録プロセスへの参加を促進することを目的としています。世界遺産登録を契機とした観光振興、地域振興をテーマとした関係各所の講師による講座に加え、「本宮砂防堰堤」や「立山カルデラ砂防博物館」の見学、立山砂防事務所で「立山砂防の取り組みについて」の講座を行いました。また立山カルデラ現地視察では、砂防事業の重要性について学びました。

開催日程：令和8年9月14日（月）～18日（金） ※5日間のうち立山関係は15日・17日

講座：立山砂防事務所（9月15日）

見学場所：本宮砂防堰堤、立山カルデラ砂防博物館（9月15日）、立山カルデラ（9月17日）

参加者：県内外の大学生等 23名

課題：【大テーマ】立山砂防の保存・活用と持続可能な観光まちづくり

【小テーマ】各グループでテーマを設定してグループワークに取り組む

9月15日の現地視察・博物館見学・講座の様子



日本最大級の貯砂量を有する砂防堰堤
（重要文化財に指定された砂防施設）



砂防施設の説明を受ける学生の様子

本宮砂防堰堤



立山カルデラの大型地形ジオラマ



8月に新設したプロジェクションマッピング

立山カルデラ砂防博物館



立山砂防事務所職員や水谷出張所職員から
立山砂防の取り組みについて説明しました



学生からは多くの質問が寄せられました

立山砂防事務所

9月17日の立山カルデラ現地視察の様子



2026年 立山砂防
県営 120年
国直轄 100年

護天涯の碑



立山カルデラ内を一望できる展望台

六丸谷展望台



日本一の高さを誇る砂防堰堤
（重要文化財に指定された砂防施設）

白岩砂防堰堤

●今回の活動は11月22日に開催される「世界遺産ユースサミットinTOYAMA」で発表されます